

べてるの家の当事者研究における
自己病名と研究テーマのテキスト
マイニング：メンタルヘルスマガジン
『こころの元気+』を分析対象にして

小平 朋江



保健医療福祉の総合大学

聖隷クリストファー大学

いとうたけひこ



和光大学

2017年9月9日（土）ポスター発表14:30～15:30

日本質的心理学会第14回大会 演題番号No091

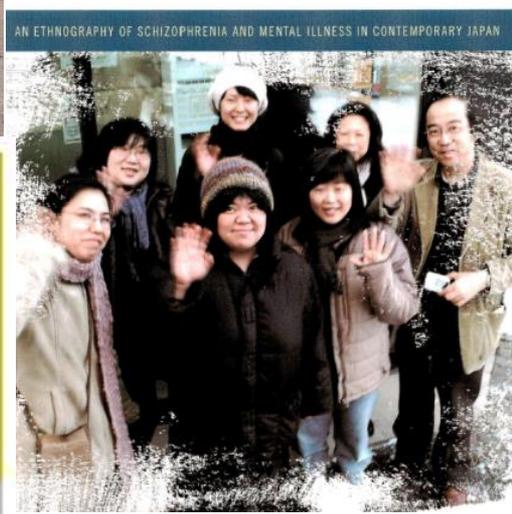
首都大学東京荒川キャンパス ポスター会場283

問題と目的

- 当事者研究は、2002年、浦河べてるの家によって始められた、精神障害をもつ人々を中心とした**当事者の当事者による当事者のための研究**。日本全国と海外にまで広がる。
- 「当事者研究の研究」もある。
- べてるまつり名物は、「幻覚&妄想大会」



2013. べてる
Karen Nakamura
A Disability of the Soul



当事者研究の可視化 テキストマイニングによる探求

小平 朋江  聖隷クリスチャー大学

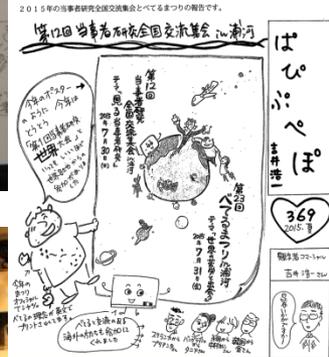
いとうたけひこ  和光大学

第12回当事者研究全国交流集会 浦河大会
浦河町総合文化会館 文化ホール
2015年7月30日(木)10:00-17:30



近年、当事者研究の研究が盛んに行われていますが、和光大学の伊藤先生と聖隷クリスチャー大学の小平先生からは「当事者研究の可視化 テキストマイニングによる探求」という研究発表をいただきました。

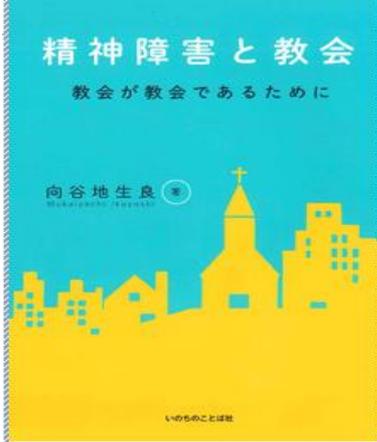
べてるまつり会場



浦河の町・海・空・牧場



問題と目的



• 当事者研究とは、

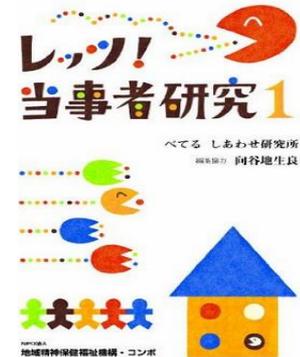
「病気を体験した当事者自身が、仲間や関係者と一緒に自分の生きづらさの意味を考えたり、解消策などについて研究し合う活動」(向谷地, 2015)

• 「本人の苦労の研究で、科学論文と同じ体裁」

(大高・いとう・小平, 2010)

和光大学のいとうたけひこ先生と 聖隷クリスティー大学の小平朋江先生は「当事者研究の可視化: テキストマイニングによる探求」と題して多くのデータをもとに話し下さいました。

当事者研究の成果は、病気とうまくつきあひながら人生や生活の取り戻しをしようとする姿といえます



べてるもんど Vol.10
発行日 2016年4月
発行所 エムシーメディアン

NPO 法人 地域精神保健福祉機構・コンボ

問題と目的

べてるもんど Vol.10

発行日 2016年4月

発行所 エムシーメディアン



表紙: 伊藤知之さん

- 研究テーマとは、
「悩みや行き詰まり」
(向谷地, 2009)
- 自己病名とは、
「自分たちで一番実感できる
自己流の病名」
(伊藤知之, 2007)

自己病名: 「統合失調症全力疾走依存あわてる誤作動タイプ」

問題と目的

- 「自己病名をつけて、それを誰かに説明できるということは、回復(リカバリー)における大切な要素」(べてるしあわせ研究所・向谷地, 2011)

- 自己病名と研究テーマの表現の特徴を明らかにすれば、**当事者視点からのリカバリー**に示唆が得られると考える。



②はじめに

浦河べてるの家では、主治医からいただく病名ではなく、自己病名といって、自分たちで一番実感できる自己流の病名を持っている仲間が多い。

僕の自己病名は「統合失調症全力疾走型」である。何に対しても全力疾走

で、僕が携帯電話に走りながら「ハイハイハイ」とあわただしく出る

姿がべてるでは名物になっている。僕は、子供の頃からさびしかった父親の眼差しや人からどう思われているかが気になり、いつも緊張感と不安感を抱えていた。

そればかりではなく、学校でパンツを脱がされるなどのいじめの体験が重なり学校にも家にも居場所がない安心のない生活をしいられてきた。

そんななか、大学時代に統合失調症を発症した。通学途中の女子高校生が自分の墨口を言っている感覚に襲われるようになったのだ。とてもつらいできごとであった。

大学のカウンセラーも体調を心配して相談に乗ってくれ、病院を受診し、薬をのむようになったが、母親以外にはそれを言うことができなかった。父親は「それは、気のせいだ」と言っ

て受け入れてくれないような気がしたがらである。

何とか入院せずに、留年しながらも

大学を卒業し、公務員試験に合格、偶然にもべてるの家がある浦河町で福祉関係の仕事についた。しかし、人間関係などのプレッシャーから休職せざるを得なくなり、今は退職し、精神保健福祉士の資格を取得し、べてるの家で当事者スタッフとして働いている。

③研究の目的と方法

(目的) 僕は、今までいつも全力疾走で生きてきた。ゆっくり休みながらやろうと頭ではわかっていながら、結果はいつも「全力疾走」である。そこで、今までの人間関係の苦勞をふり返りながら、全力疾走のメカニズムの解明を試みた。

(方法) スタッフや仲間と自分の体験を話しながら、苦勞のパターンの解明をした。話したことは、できるだけ図に描き、みんなで共有し、自分の助け方の方法を探った。

方法：分析対象



COMHBO 地域精神保健福祉機構
CCommunity Mental Health & welfare Bonding Organization

メンタルヘルスマガジン『こころの元気+』

NPO法人・コンボ発行

2007年3月創刊

当事者が表紙モデル

毎号、当事者・家族の体験談を多く掲載

リカバリーの語りの共有を可能に



方法:分析対象 メンタルヘルスマガジン

・『こころの元気+』



COMHBO 地域精神保健福祉機構
CCommunity Mental Health & welfare Bonding Organization

「べてるの家の当事者研究」

120回連載の記事

2007年5月号(第1考)～2017年4月号(第120考)

「自己病名」「研究テーマ」を抽出した



- 倫理的配慮:分析対象の雑誌は一般に出版・公開されており、著作権に配慮し、著者の表現や言葉など改変せず、引用部分を明示し、出典を明記した。

方法:分析手法

- テキストマイニング分析

Text Mining Studio Ver.5.2

- 「研究テーマ」

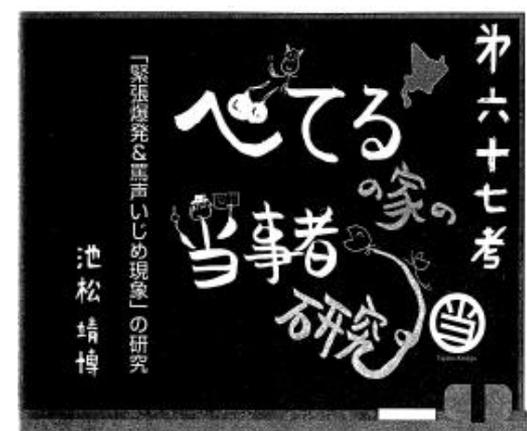
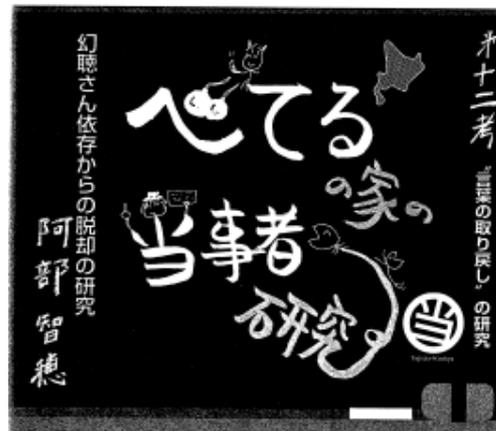
単語頻度分析

原文参照

- 「自己病名」

単語頻度分析

原文参照



- 加えて自己病名については、その説明の記述内容に沿ってカテゴリー化を行った

結果：分析対象

120記事に出現した自己病名＝136個

自己病名に医学的診断名「**統合失調症**」の表記を含むものに焦点を当てた(単語頻度の出現頻度は1位)

⇒ 52記事より57個の自己病名を抽出した

(1記事を複数名で執筆した当事者研究がある)

52記事の出版年※分析対象の期間で()内は記事数を表す

2007年(6) 2008年(9) 2009年(7)

2010年(9) 2011年(5) 2012年(7)

2013年(4) 2014年(2) 2015年(3)

2016年(0) 2017年(0)※2017年4月号120考まで

結果:「研究テーマ」

- 基本情報

項目	値
総行数	120
平均行長(文字数)	18.8
総文章数	162
平均文章長(文字数)	13.9
延べ単語数	588
単語種別数	319

- 単語頻度分析

出現頻度の多かった上位10単語

研究(118)

付き合う(15)

苦勞(13)

メカニズム(6)

幻聴さん(6)

当事者研究(6)

脱却(5)

仲間(5)

助ける(4)

爆発(4)



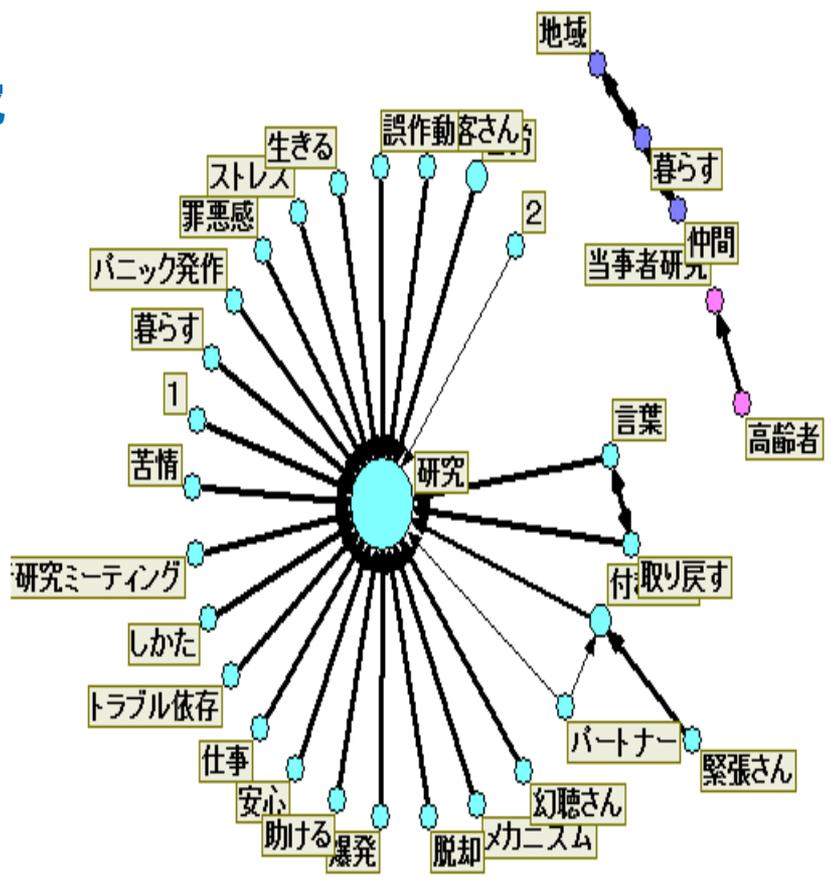


結果:「研究テーマ」の原文参照

(研究テーマの例)

- 阿部智穂 幻聴さん依存からの脱却の研究
- 伊藤知之 全力疾走依存の研究
- 亀井英俊 緊張さんとのつきあい方の研究
- 沼尾美代子 男性依存と爆発からの脱却の研究
- 森 亮之 被害妄想爆発からの脱却の研究
- 千高のぞみ ドラマチック幻聴さんとのつきあい方の研究
- 松原朝美 自分の運転の仕方の研究
- 浅野智彦 息子関白の研究
- 本田幹夫 雰囲気の違い誤作動の研究
- 山根耕平 昔の苦労のよみがえり現象の研究
- 池松靖博 緊張爆発&罵声いじめ現象の研究

ことばネットワーク



結果:「自己病名」の単語頻度分析

出現頻度の多かった上位10単語

統合失調症(57)

タイプ(29)

症候群(7)

コントロール障害(6)

お客さん(5) 淋しい(5)

依存タイプ(4) 幻聴さん(4) 慌てる(4) 人(4)



結果:「自己病名」の4カテゴリー

- 「**統合失調症**」の表記を含む自己病名**57**個
- 記述内容に沿ってカテゴリー化

4カテゴリーに集約(表1) ※()内は自己病名の個数で合計**57**個

「**症状**とのつきあい」(28)

「**自分**とのつきあい」(15)

「**人**とのつきあい」(13)

「**仕事**とのつきあい」(1)





考察：自己病名の構造

自己病名 ≡ 診断名 + 弱さの情報公開

- 自己病名の組み立て方について
- 医学的診断名の統合失調症の後に、
「～型」「～タイプ」が付けられる特徴がある
自己病名の意味内容から読み取ってみると、
「～型」 ⇒ 原因「～なので」(診断名)
「～タイプ」 ⇒ 結果「こうなっている」
(=生活上の困ったこと=「弱さの情報公開」)

自己病名は自己開示uncoverする方法 (uncovery)

当事者研究で発見 (discovery)の過程 (「自分自身で、ともに」)

実験して回復の過程 (recovery) (失敗しても「苦労だらけで順調」)

考察：自己病名をつけることの意味

●自己病名を考える＝

- ・どのような支援のニーズを持っているのか...知っている
- ・「自分の苦勞の主人公」になるための重要なプロセス
(べてるしあわせ研究所・向谷地,2011)

●「リカバリー」とは？ (Slade, 2013/ 2017)

・2つの意味

「病気からのリカバリー」

「人としてのリカバリー」

・「frame, framing」

経験を枠で囲う

自分なりにその経験を理解し名前をつける

その経験は自分の一部その人全てではない

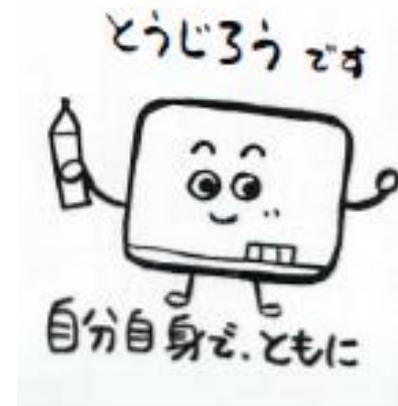
- ◎自己病名をつけて**症状のメカニズムを解明し、
症状をコントロール可能なもの**にしていく



考察：経験専門家としての当事者

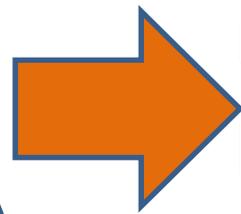
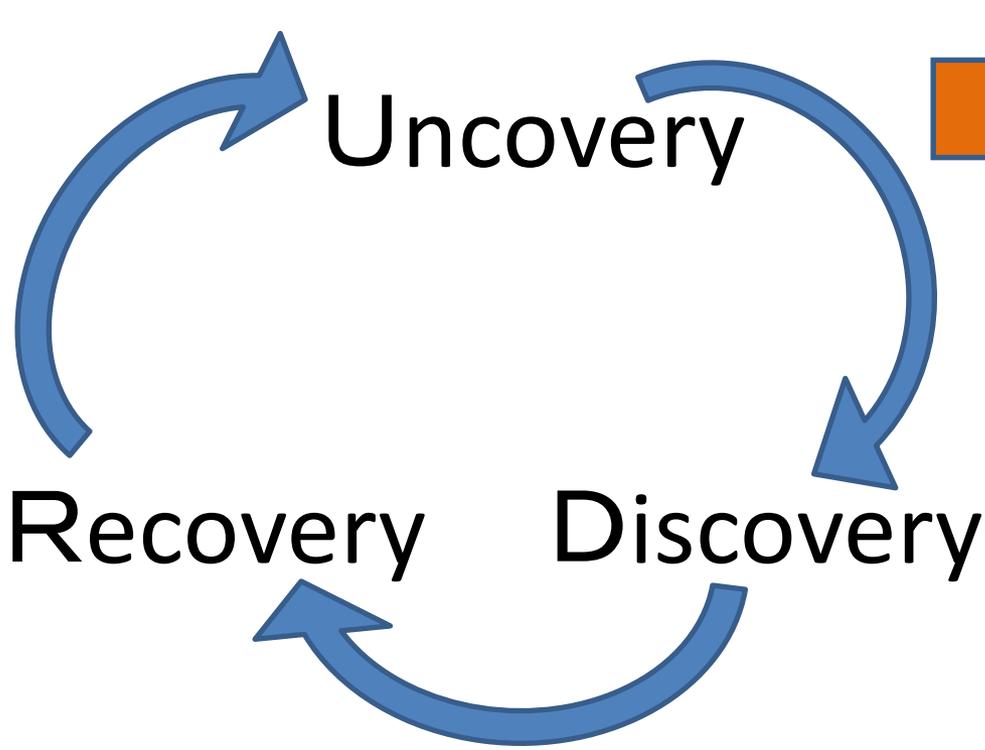
- 自己病名や研究テーマにより当事者視点での苦勞が可視化され、成長と発見がなされることで、生きづらさを仲間と共有し、「人としてのリカバリー」(Slade, 2013/ 2017)のプロセスに役立つ意義がある。経験専門家としての自己病名という命名。
- 野村(2017)が述べるように、「『統合失調症』は医療者という第三者の体系(コンテキスト)からの命名なので、当事者は異なる捉え方をする」「患者やクライアントを『経験専門家』と捉える」視点が重要であり、人それぞれのリカバリーがある。

考察：当事者研究のUDRサイクル



- (1) **U**ncovering: 弱さの情報公開、
自分自身でともに、外在化
- (2) **D**iscovery: 当事者は自分の経験専門家
三度の飯よりミーティング
- (3) **R**ecovery: いい苦勞に、
(苦勞だらけで)「それで順調！」

考察：当事者研究のUDRサイクル



U 公開：経験の共有
D 発見：経験専門家
R 回復：良い苦勞

UDRサイクルは、
べてるの家の当事者
研究における
公開・発見・回復



【これまでの関連研究】(www.itotakehiko.comからダウンロード可能)

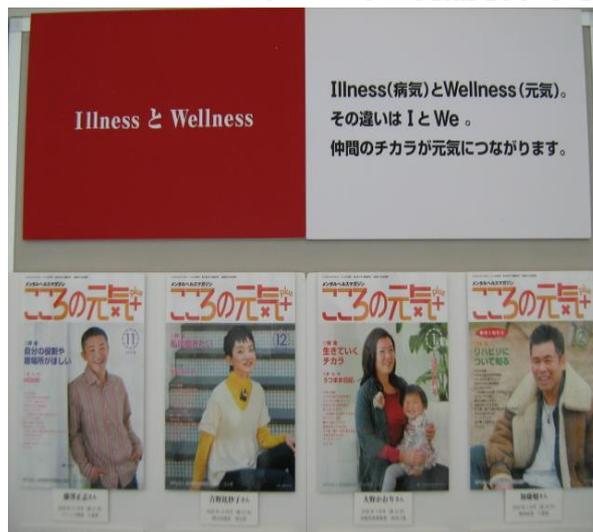
- R130小平朋江・いとうたけひこ・大高庸平(2010). 統合失調症の闘病記の分析:古川奈都子『心を病むってどういうこと?:精神病の体験者より』の構造のテキストマイニング 日本精神保健看護学会誌 19(2), 10-21.
- 小平朋江・いとうたけひこ(2013)『こころの病を生きる:統合失調症患者と精神科医師の往復書簡』の当事者と医者への語りへのテキストマイニング 第33回日本看護科学学会学術集会講演集,p639.
- G222 小平朋江・いとうたけひこ(2014)『当事者が語る精神障害とのつきあい方』の5人の統合失調症を持つ人たちの回復の語りへのテキストマイニング第34回日本看護科学学会学術集会
- G232 小平朋江・いとうたけひこ(2015)当事者研究の可視化:テキストマイニングによる探求 第12回当事者研究全国交流集会 浦河大会
- G239 小平朋江・いとうたけひこ(2015)ある統合失調症闘病記のリカバリーとヘルパー・セラピー原則 西純一『精神障害を乗り越えて:40歳ピアヘルパーの誕生』の内容分析およびテキストマイニング 日本心理学会第79回大会
- G244 Kodaira, T., & Ito, T. (2016, March) *Visualization of Tojisha Kenkyu studies: A text mining approach to recovery (and discovery)*. Poster session presented at the 19th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS 2016), Chiba, Japan.
- G247 Kodaira, T., & Ito, T. (2016, July) *Psychological approach to Tojisha Kenkyu studies of people with mental illness*. Poster session presented at ICP2016, Yokohama.
- G259 Ito, T., & Kodaira, T. (2016, October) *Soul and science unite in Tojisha Kenkyu studies of people with mental illness*. Poster Session presented at Global Human Caring Conference Wuhan, China
- G263 小平朋江・いとうたけひこ(2017)精神障害をもつ人々の回復の語りへのテキストマイニング:メンタルヘルスマガジン『こころの元気+』100の表紙モデル記事における話題の特徴 統合失調症研究7(1), 第12回日本統合失調症学会プログラム・抄録集 139.
- G264 小平朋江・いとうたけひこ(2017)精神障害当事者の自己開示とリカバリー:メンタルヘルスマガジン『こころの元気+』表紙モデルの動機と理由および特集タイトルの分析 日本発達心理学会第28回大会論文集 577.
- R207 小平朋江・いとうたけひこ(2017)浦河べてるの家の当事者研究の語りとリカバリー:テキストマイニング分析 心理科学 38(1),55-62.

謝辞



- このような貴重な研究の機会を下さいました北海道医療大学/浦河べてるの家の向谷地生良先生、NPO法人地域精神保健福祉機構・コンボの丹羽大輔さんに記して感謝いたします。

『こころの元気+』表紙写真展の様子
「第12回日本統合失調症学会」
(2017年3月鳥取県米子市)



COI開示

- 筆頭者および共著者には、演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業・組織および団体はありません。